

主に船舶等のレーダーに使用されている周波数帯の一部(X帯。注1)において小型の気象レーダーを運用するための条件等について検討を行うもの。

既存の大型の気象レーダーに比べて、観測可能な範囲は小さい(注2)が船舶用レーダーの技術等を転用することで、安価で設置・運用が簡便な製品が期待できることから、必要な場所に設置することで局地的な豪雨や急な天候の変化を適切に検出できるものとして普及が期待される。

注1; 9.4GHz帯の周波数を想定している。この周波数は船舶等の航行用のレーダーに使用されており、小型の製品の技術を転用しやすい一方で、これら既存のレーダーと共存のため、有害な混信を与えない運用の条件等を検討する必要がある。

注2; 気象用レーダとしては従来、5.3GHz帯(C帯)のほか、9.7GHz帯が割り当てられて主に大型(アンテナ径2~5m)のものに使用され、最大100km~300km程度の範囲の観測が行われているが、本件では0.5~1m径程度のアンテナにより最大50km~100km程度の範囲の観測を想定している。

